

忘れぬと 無益戦の 終戦日

むえきいくさ

◆作者の思い

何の罪もない人たちが多く亡くなった戦争の終戦の日を絶対忘れないという思いで作りました。また、戦争をしても失うものが多くて、悲しむ人々がたくさんいるということから「無意味な戦争」と書きました。そして、季語を終戦日にしたり、忘れぬとの「ぬと」を使ったところを工夫しました。

浴衣着る 長姉の姿 みつめけり

ちょうし

◆作者の思い

私には姉がいます。その姉が、夏祭りに行くために浴衣を着せてもらっていました。小さかった私は、「お姉ちゃんができることは何でもしたい」と思っていたので、大きすぎる浴衣はまだ着れないと言われたときのもどかしさを思い出し、俳句にしました。「姉」を「長姉」に変えることで文字数を合わせることもでき、年の差を感じさせることができたと思います。妹の目線で書いた句なので、妹の人は共感できるのではないのでしょうか。

始まりは ラジオ体操 あくびから

◆作者の思い

私は、夏休みといえば、ラジオ体操を思い浮かべました。ラジオ体操は、朝早くからあります。だから、私は一日の始まりはラジオ体操からだと思い、最初に「始まりは」としました。ラジオ体操には、一番からと順番がありますが、いつも朝早いのであくびがでてしまうので「あくびから」としました。自分が夏休み、朝早いまだ眠い時間にあくびをしながら講演でラジオ体操をする情景を思い、この俳句を歌いました。

とけそうだ アイスクリームに 私まで

◆作者の思い

このごろ、だんだん気温や湿度が上がり暑くなってきて、授業中暑さでぼーっとしているところを想像した。そのぼーっとした感じがまるでアイスクリームなどがどろどろにとけてしまうのと同じような感じだと思った。「暑さでアイスクリームや氷、チョコレートなどだけでなく、私たち自身、脳までも溶けてしまい、何も考えられない、とにかく暑い！」という授業中の私の心の声を歌った。情景は、晴れた日の授業中の光が差し込んできた教室を思い浮かべた。

空見ると むじやき飛ぶかふ 赤とんぼ

◆作者の思い

私の幼少期の思い出を俳句にしてみました。まず、「空見ると」とは、小学生のときに田んぼで遊んでいるときのことです。空を見ると、たくさん赤とんぼがむじやきに飛んでいるのを見ました。この俳句に込めた思いは、幼少期に田んぼでむじやきに遊んでいるところに戻りたいと思ったし、また遊びたいと思ったからです。自分がむじやきに遊んでいるところを赤とんぼに例えました。中学生になって、幼少期のようににはしゃいだりすることが少なくなったので、遊べるときには幼少期のように田んぼでたくさん遊びたいです。

追憶す あの天狼の如し夢

◆作者の思い

受験前に、冬の家のベランダで、星空に浮かぶ大犬座の一等星「シリウス」をながめている。あのシリウスのように輝く夢を再確認する決意を固めているという情景をよみました。シリウスはギリシヤ語では「光り輝くもの」などと言われます。自分の夢を今までひたすら追ってきて、いよいよ本番前だという、非常に緊迫、緊張している中で、あの星を眺めながら、自分の光り輝く夢を再確認し、緊張をほぐし、気持ちをしっかりと、気持ちが変わっていく瞬間をよんだ句です。

片時の 君とみる花火 はな 永遠に

◆作者の思い

好きな男の子と花火大会に行って、最後花火を見るときに、とてもうれしく、幸せで、切ない気持ちになって、この時間がずっと永遠に感じて、そして、このままこの時がずっと続けばいいのにと、思っているけれど時間はあつという間に去って行ってしまおうという少し切ない句です。この男の子と上手くいったのかは、読んだ人が決めてほしいと思います。

暑すぎて はやくされよと 嘆く日々

◆作者の思い

学校で授業中に、なまぬるい風が吹き、とても暑くて、この暑い時間がはやくさってほしいという思いからこの俳句をつくりました。また、「暑い」をただ暑いと書かず、「暑すぎて」を使って、より暑さを表現しました。そして、「日々」という体言止めを使ったことを工夫しました。

汗ぬぐひ たくさん笑った 部活動

◆作者の思い

この句は、中学校の部活動の三年間を詠んだ歌です。私は、季語の「汗拭ひ」の「汗」を今までの練習でつらかったこと、大変だったこと、うまくいかなかったことなどと考え、「拭ひ」というところで、それを乗り越え、達成してきたというふうに考え、表現しました。私は、中学校の部活に入って、初めてクラリネットを吹きました。最初は全く音が鳴らなかったのですが、たくさん悩んで、とても辛かったこともたくさんありました。しかし、昨年、コンクールに出ることになって、曲の練習など大変だったけど、必死になって頑張り、本番では自分のベストをつくすことができ、最後は笑って終わることができました。それは、一人一人が今までの練習で辛かったことなどを乗り越え、努力してきたからこそそのものだと思います。だから今年も今の課題を乗り越えるまでたくさん練習し、今年も最後は笑って終わりたいという思いと、今までの経験からこの句をつくりました。